

報告事項 イ

県立夜間中学シンポジウム及び個別相談会の開催結果について

県立夜間中学シンポジウム及び個別相談会の開催結果について、別紙のとおり報告します。

令和4年10月20日

鳥取県教育委員会教育長 足羽英樹

# 県立夜間中学シンポジウム及び個別相談会の開催結果について

令和4年10月20日  
小中学校課

## 1 ねらい

自分らしい学びを実感できる夜間中学のあり方を考えるシンポジウム及び県立夜間中学に関する相談会を開催し、学びの機会確保の必要性や夜間中学の意義、国の動向や他県の県立夜間中学の取組を紹介することをとおして、夜間中学を広く県民に周知し、新たなニーズの掘起しを図る機会とした。

## 2 開催日時・内容及び参加者数

	開催期日・内容		参加者数
東部	令和4年10月2日(日) 鳥取市総合福祉センターさざんか会館	シンポジウム及び相談会	50名
中部	令和4年10月9日(日) 上井コミュニティセンター	相談会及び10月2日開催のシンポジウムの動画上映	0名
西部	令和4年10月16日(日) 米子市公会堂		1名
動画	シンポジウム後日、希望者に対し、行政説明とパネルディスカッションを動画配信(YouTubeによる限定公開)		7名

※個別の相談会を計画したが、実際の相談者はなし。

## 3 シンポジウム概要

### (1) プログラム

ア 徳島県広報番組「あわりポ」及び徳島県立しらすぎ中学校生徒のインタビュー録画の上映

イ 行政説明(県立夜間夜間中学コンセプトと開校に向けたスケジュール)

ウ パネルディスカッション及び質疑応答

テーマ「多様性を生かした学び合いの中で、自分らしい学びを実感できる夜間中学のあり方」

<コーディネーター>

鳥取大学地域学部地域学科准教授 田中 大介 氏

<パネリスト>

文部科学省初等中等教育局教育制度改革室長 前田 幸宣 氏

徳島県立しらすぎ中学校長 都築 吉則 氏

福岡市立福岡きぼう中学校教頭 田代 貴之 氏

とっとりひきこもり生活支援センター所長 山本 恵子 氏

### (2) パネルディスカッションにおけるパネリストの主な意見・取組等

ア 夜間中学への通学について

- ・徳島県は学校が終わる午後9時過ぎは、路線バスの最終が出てしまっている。バス通学の生徒は、4限目を受けずに3限目までで帰ることを認めている。生徒が通える時間に始まり、安全に帰れる時間で終わることを前提にしている。
- ・福岡きぼう中学校では秋口になると体調を崩す方や少し心が穏やかでなくなる方が多いと感じている。例えば雪の多い時期に長期休業を設けるなど柔軟性を持つのも一つの手だと思う。
- ・公共交通機関のこともあり、通えない方のために、制度上、遠隔教育がある。全ての授業をオンラインというわけにはいかないが、教科によっては、一定程度を導入することで、より多くの人が夜間中学で学ぶ機会を保障する仕組みとして、一つあると感じている。

イ 学び方について

- ・徳島県立しらすぎ中学校では、始業前に早めに登校する生徒もおり、自主学習をしたり、教員と一対一で個別指導を受けたりすることもある。長期休業中は、基本的には、自由に登校し、どの時間でも学べ、教室も空いていればいつでも使える形をとっている。
- ・引きこもり状態を作らないために、社会の側から繋がりを作っていくといけない。

ウ 学ぶ権利の保障・多様な学びについて

- ・(引きこもりの)支援が必要な方が、年を追うごとに増えていく印象。不登校がいけないのではなく、また、引きこもることがいけないことでもなく、その方にとってはエネルギーを蓄える時期であったり、心身を休める大切なケアをする時期でもあったりするが、一方で、引きこもりを長期化させないことも大事だと思う。
- ・(教員として)誰であってもフラットな目線で接している。そうすると、自然と仲良くなる。高齢者と10代が孫と祖父母の関係性のようになったりする。大きなトラブル以外は、教員からはあまり手を出しすぎない。生徒に関することは常日頃、教員間で情報共有を行っている。

- ・夜間中学も法律で定める中学校だが、6歳から15歳が通う小・中学校と全く同じ視点ではない。海外では、分からない場合は教えるカリキュラムが悪いと考える国もあって、10人いれば10人用のカリキュラムを考えたりする。夜間中学と共通しているのは、一人ひとりの出番を作るということ。多様なものを受けいれるというのは、学ぶ権利の保障とつながっている。

## エ 学校の雰囲気について

- ・（福岡市では夜間中学を教育センターに設置）建物自体は学校の雰囲気ではない。一般の中学校で使っているような生徒用机椅子を入れて少し学校の雰囲気も出しながら、あまり学校のような雰囲気を前面に押し出さないようにしている。

## （3）参加者からの主な質問・回答の概要

- ・夜間中学に入学選抜はあるか。
  - 選抜というと、いわゆる入試のような捉えになってしまうので選抜とは違う。体験授業や個別面談などを受けていただくことを想定している。
- ・障がい者への対応について、鳥取県の場合はどのように考えているか。
  - 個々の障がいについては、個別にお会いして、お話を伺った上で、それぞれの状況に応じて受入れに向けた配慮ができるか考えていかなければいけない。
  - 徳島）入学希望者面談時に、障がい等を聞いて、対応できれば入学を許可するという方向。ただし、どうしても受入れができない、十分学んでもらえないのではないかと判断される場合、面談時に丁寧な説明をしてご遠慮いただいている。
  - 福岡）どういう障がいがあるかを聞いて、学校として対処できる、できないをはっきり示している。それでも通ってみたいということであれば入学を受け入れる。

## （4）参加者アンケート回答結果の概要

- ア 回答者数** 33名 【内訳】 県内29名（東部27名、中部1名、西部1名）、県外2名、未回答2名
- イ 所属等** 夜間中学の対象者の支援者・保護者等 2名、学校関係者（校長・教頭・教諭等）3名  
一般 10名、教育委員会 14名、その他 4名
- ウ 動画上映の内容について、参考にしたいことや考えたことなど**
- ・熱心で個人を大切にされた教育活動で大変参考になった。
  - ・夜間中学生の生の姿が見られてよかった。
  - ・不登校であった方が大きなハードルを越えて、夜間中学への入学を行い、楽しく学んでいることについては人生を変える転機となっていると感じた。
  - ・目標・目的が共有できれば、仲間ができて前に進む力が強くなる。年齢・国籍など関係なく、豊かな学びの場となる事が印象的だった
  - ・様々なメディアを用いたわかりやすい広報、周知もいる。
- エ パネルディスカッションの内容について、参考にしたいことや考えたことなど**
- ・学びに枠をつけないで、誰一人取り残さない学びを進めてもらいたい。
  - ・学校設置場所と交通の利便性を考慮する必要性を感じた。夜間の列車・バス等の便数が少ない。
  - ・生徒の強い意志で家族・地域が変わっていくことに期待が高まった。
  - ・ニーズの掘り起こしは、地域の関係機関や団体の協力が大切と理解した。
  - ・国勢調査の未就学者、小学校卒業者の方のなかには、若い方もおられ、背景は何か考えさせられた。他県の取組から鳥取県でもよりよい一歩になればと期待が高まった。
- オ 鳥取県における夜間中学の設置にむけて、期待することなど**
- ・パブコメを経てコンセプトを作ったことが素晴らしい。行政説明の資料がもっと欲しかった。
  - ・公共交通機関を利用して通いやすい場所にせめてサテライト（分校）ができるとよい。
  - ・学びたいのに学べない、学べなかった人たちが、安心して意欲を持って学べる学校づくりをしてほしい。
  - ・鳥取県には交通弱者の立場にある方も少なくないが、夜間中学の主旨に賛同される民間の交通機関の協力を得て高齢の方や体の健康に不安がある方等で学びたい方が通いやすい環境になるといいと思う。
  - ・期待することの一番は学齢期の生徒を対象にすること、利用の可、不可を大人が決めるのではなく、子どもに選択権を与えてほしい。このことを開校後も検討を続けてほしい。